

基準（具体的な内容）

防犯指導リーダー（地域で指導できる）

- ①登下校時に子どもを見守る活動を指導，要請できる。
 - ②自転車や自動車で巡回する活動を指導，要請できる。
 - ③犬の散歩，買い物を兼ねたパトロール活動を指導，要請できる。
 - ④「安全マップ」などを活用した活動を企画・実行することができる。
 - ⑤防犯ボランティアのジャンパーや腕章などの道具を適切に管理できる。
- p.26～29
p.14～15

- ①地域に適した子ども向け防犯標語などを子どもたちに説明できる。
 - ②大きな声の出し方を指導できる。
 - ③子どもが声かけにあったときの対応について指導できる。
 - ④子どもにできる基本的な護身術を指導できる。
 - ⑤「安全マップ」などについて説明し，その作成方法を指導できる。
 - ⑥危険人物から「逃げる」方法を具体的な根拠を含めて指導できる。
- p.26～29

- ①あいさつ運動を実施することで期待できる効果について説明できる。
 - ②サイバー犯罪の危険に対して子どもたちへの啓発活動ができる。
 - ③不審者に狙われにくい方法を指導できる。
 - ④不審者情報をもとに，学校と一緒に子どもへの周知徹底を図ることができる。
 - ⑤子どもへの影響を配慮した防犯訓練を考え，実行できる。
 - ⑥子どもの心を掴む方法を知っている。
 - ⑦スクールガードリーダーやスクールサポーターの役割を理解し連携がとれる。
- p.8～9

- ①子ども110番の家の役割を説明できる。
 - ②子ども110番の家の効果や具体的な活動について説明できる。
 - ③地域の子ども110番の家の実数，場所，実態などを把握している。
- p.40～41
p.40～41
p.40～41

- ①子ども110番に協力している地域の団体などについてその内容と役割を説明できる。
- p.40～41

- ①非行防止に関する取り組みについて具体的な事例を説明できる。
 - ②喫煙，飲酒，ドラッグなどの危険性について具体的に指導できる。
- p.46～47

- ①保護司の役割について説明できる。
- ②保護司と連携し，非行防止活動を実施できる。

- ①不審者が近寄りづらい環境作りに取り組むことができる。
 - ②地域の環境浄化と防犯との関係性（割れ窓理論・犯罪機会論など）について説明できる。
- p.30～31
p.30～31

- ①防犯活動を行う際に地域に呼びかけ，協力を得ることができる。
 - ②近隣の地域の犯罪の状況を理解し，お互いに助け合うことができる。
 - ③自分たちの行っている活動を他の人にわかりやすく説明できる。
 - ④近隣の校区での防犯教育の取り組み，実践例の情報を把握している。
 - ⑤自主防犯組織の立ち上げから活動に至るまでの流れを知っている。
- p.36～37, p.42～43
p.36～37

- ①声かけ事案についての事例を挙げることができ，地域に生かすことができる。
 - ②防犯活動時の参加者への広報や人集めの方法を知り，実行できる。
 - ③民生委員（児童委員）の活動を理解し協力の依頼ができる。
 - ④地域に対して，発信が必要な情報と不要な情報の取捨選択ができる。
 - ⑤啓発のためのアイテム（服装やシール，ロゴなど）を企画・立案することができる。
- p.36～37